

[ 参加要領 ]

学士課程教育のコンセプトと教学運営

日時：2007年12月7日(金) 9:40～16:50  
 会場：日本教育大学院大学 会議室 (東京・麹町)  
 東京都千代田区二番町 8-2  
 アクセス：地下鉄有楽町線「麹町駅」5番出口より2分  
 JR「市ヶ谷駅」「四ツ谷駅」より徒歩6分  
<http://www.kyoiku-u.jp/shisetsu/access01.htm>  
 会場の地図及び受講証を送付しますので  
 必ずご確認ください。  
 参加費：A. 一名 (資料代込)

41,000円(消費税込)  
 B. メディア参加(資料・カセットテープ送付)  
 42,000円(送料、消費税込)

学士課程教育の構築～論点の明確化

日時：2007年12月14日(金) 10:00～17:00  
 会場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町)  
 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2  
 アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営新宿線  
 「神保町駅」A1番出口より徒歩3分  
<http://www.jec.or.jp/koutuu/>  
 会場の地図及び受講証を送付しますので  
 必ずご確認ください。  
 参加費：A. 一名(資料代込)

40,000円(消費税込)  
 B. メディア参加(資料・カセットテープ送付)  
 41,000円(送料、消費税込)

参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方が都合の悪いときは代理の方がご出席ください。

FD・SD及びBD研修の本格化に伴い、2007年から受講・修了証明書を発行しております。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえFAXまたは郵送にてご送付ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 郵便振替 00110-8-81660  
 全ての口座名 <(株)地域科学研究会>

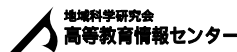
ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106

Tel: 03(3234)1231 / Fax: 03(3234)4993

E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp) URL: <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/>



キリトリ線(参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ120 学士課程教育のコンセプトと教学運営	2007年 月 日	当日参加	メディア参加
高等教育活性化シリーズ121 学士課程教育の構築～論点の明確化		当日参加	メディア参加
勤務先 _____			
所在地 〒 _____			
TEL _____	FAX _____	連絡部課・担当者 _____	
参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス	
通信欄 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類(請求書 見積書)			

この個人情報、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

セミナーのご案内

今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご覧につき、ご高配をお願いいたします。

回	覧				
---	---	--	--	--	--

高等教育活性化シリーズ120(通算380回)

2007年12月7日(金)

学生の“学習意欲”と“学修力”を引き出す

学士課程教育のコンセプトと教学運営

高等教育活性化シリーズ121(通算381回)

2007年12月14日(金)

リアルな日本社会と学生・教員の実態から

学士課程教育の構築～論点の明確化

学生の“学習意欲”と“学修力”を引き出す

学士課程教育のコンセプトと教学運営

～カリキュラム/履修・評価システム/FD活動～

「教養」することの意味/教養教育モデル/慶應大教養研究センターの取り組み  
 アメリカモデルと国際比較/基礎教育プログラムの改革/二世世代のFDとTA  
 学生の多様化と大学教育の変遷/日本型能動的学習授業/リモコンによる学生応答システム  
 (大阪女学院大) 学士課程教育の成立/国際通用性の背景/国際・英語学部の挑戦  
 [ICU] 教学改革(08年4月)/6学科から31メジャー制へ/自発的学修者支援

講師陣

横山 千晶 氏 / 慶應義塾大学法学部教授・教養研究センター所長  
 小笠原正明 氏 / 東京農工大学大学教育センター教授  
 元・北海道大学高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部長・教授  
 鈴木 久男 氏 / 北海道大学理学部准教授  
 関根 秀和 氏 / 大阪女学院大学長  
 日比谷潤子 氏 / 国際基督教大学教養学部教授・教学改革本部長

2007年12月7日(金) 日本教育大学院大学 会議室 (東京・麹町)

リアルな日本社会と学生・教員の実態から

学士課程教育の構築～論点の明確化

～そもそも“高校”“大学”とは/中教審等の審議状況を踏まえて～

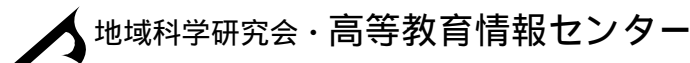
高校教育と大学教育 今、何が問題か  
 高校と大学の接続 全入化時代の「選抜」/受験生にとっての“準備”とは  
 学士課程の構築 学位課程の意義/学士課程の意義と中味

企画協力 21世紀総合教育研究機構

講師陣

山岸 駿介 氏 / (財)日本私学教育研究所 理事・所長、教育ジャーナリスト  
 荒井 克弘 氏 / 東北大学副学長(教務担当)・高等教育開発推進センター長  
 館 昭 氏 / 桜美林大学大学院国際学研究所教授  
 中教審大学分科会制度・教育部会学士課程教育小委員会専門委員

2007年12月14日(金) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)



学士課程教育のコンセプトと教学運営

2007年12月7日(金)

時間	講義項目
9:40 11:10	<p>「<sup>きょう養する</sup>教養する」ことの意味 つなげる、考える、実行する ～慶應義塾大学教養研究センターの過去・今・未来～ 慶應義塾大学 横山 千晶</p> <p>1. 礎石 「教養教育グランドデザイン」 (1)新たな「知」のあり方を考える (2)新たな「知」の伝達を考える (3)新たな教養教育のモデルを考える</p> <p>2. 慶應義塾大学教養研究センターの立ち上げ (1)「グランドデザイン」と教養研究センターのミッション (2)教員・職員・学生の三位一体 (3)教員の意識改革 「共有地」としての教養研究センター</p> <p>3. 見えてきたことと新たな取り組み まずは実行する (1)学ぶための「スキル」とは何か 『アカデミック・スキルズ』と身体知の実験授業 (2)広い視野を持つ 「生命の教養学」 (3)学びの「場」はひとつではない 場と空間をどう再構築するか (4)「FD」とはいったい何なのか 教養研究センターの考える教員サポート</p> <p>4. 未来へ 慶應から世界へ (1)カリキュラムとは常に実験し続けるもの さまざまなクラスの試行と施行 (2)学びとは生きることそのものである 学びの「ポートフォリオ」の作成と「教養する」人間の育成 (3)人としてひととしてよりよく生きるとは 今も生きる「ロゴス」、「パトス」、「エートス」</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
11:20 12:10	<p>学士課程のカリキュラム開発とFD ～戦略的な基礎教育プログラムの改革 理系を中心に～ 東京農工大学 小笠原 正明</p> <p>1. 学士課程と大学院課程のアメリカモデル (1)なぜ大学院のFD義務化か? (2)ファカルティとプログラム (3)学士課程のFD義務化は日本固有の事情</p> <p>2. 学士課程教育の国際比較 (1)カリキュラムと履修システムの違い (2)教育方法 (3)大規模授業の変貌</p> <p>3. 基礎教育プログラムの改革 (1)北海道大学の理系基礎教育の改革 (2)東京農工大学の教養化学の試み (3)言語を基礎とした科学教育の再構築</p> <p>4. 第二世代のFDとティーチングアシスタント (1)大学教員の二つの職業 (2)FDの構造化</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
12:10 13:00	<p>教員中心の授業から学生中心の授業への改革 ～基礎物理の授業におけるリモコン学生応答システム「クリッカー」の威力～ 北海道大学 鈴木 久男</p> <p>1. 多様化する学生と大学の対応 (1)多様化する学生とは? (2)大学教育の変遷から今後へ</p> <p>2. アメリカの大学で急激に普及した教授法とは? (1)アメリカの大学の特性と、社会的認知構成主義学習理論 (2)能動的学習授業 (3)教員中心の授業から学生中心の授業へ</p> <p>3. 大人数教育の欠点を克服する「クリッカー」による双方向性授業の威力 (1)クリッカーを体験してみよう! (2)クリッカー運用は意外に簡単 (3)北大初等物理教育での「クリッカー」の運用とその効果 (クリッカーのデモあり)</p> <p>4. 日本型能動的学習授業の試み (1)アメリカ版能動的学習授業はそのまま日本で通用するか? (2)自習システムを交えた日本型能動的学習システムの構築 (3)E-learning 2.0 と「Just in Time Teaching」への取り組み</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>

14:00 15:20	<p>学士課程教育の実質化への挑戦 ～大阪女学院大学 国際・英語学部のコンセプトとその展開～ 大阪女学院大学 関根 秀和</p> <p>1. コンセプト 学士課程教育の成立 (1)大学教育の twists and turns (2)政策誘導の変化 (3)大学教育学会での検討と実践</p> <p>2. コンセプト 国際通用性の背景 (1)人材育成の運滞(怠) (2)学習の国際交流 (3)留学生政策の空洞化</p> <p>3. 大阪女学院の価値志向 (1)理念の再確認 (2)大学英語教育の追求 (3)学士課程教育の構想</p> <p>4. 国際・英語学部としてのチャレンジ (1)ラーニング・アウトカムズ (2)教育課程の構成</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
15:30 16:50	<p>ICUの教学改革 ～メジャー制導入と自発的学修者の育成～ 国際基督教大学 日比谷 潤子</p> <p>1. 教学改革(2008年4月実施) (1)リベラルアーツ (2)4年間の学び: 広くかつ深く学ぶ</p> <p>2. メジャー制度 (1)学科からメジャーへ (2)31のメジャー(専修分野) (3) シングルメジャー ダブルメジャー メジャー、マイナー</p> <p>3. 学修者支援体制 (1)アドヴァイザー制度 (2)アカデミックプランニング・オフィス</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>

学士課程教育の構築～論点の明確化

2007年12月14日(金)

時間	講義項目
10:00 12:00	<p>高校教育と大学教育 今、何が問題か ～中教審「学士課程教育」小委員会ほかの審議状況を踏まえて～ (財)日本私学教育研究所 山岸 駿介</p>
13:00 14:50	<p>高校と大学の接続 論点の明確化 東北大学 荒井 克弘</p> <p>1. 全入化時代の大学入学者選抜～公開性 (1)多様な受験者のための多様な「選抜」 (2)入学要件の内容と基準の明示～受験生の準備 (3)AO選抜の欠点と進化</p> <p>2. 教育再生会議の発想と学力政策 (1)センター試験から「複数の共通試験」化へ (2)授業時間10%増と高校教育の実情 (3)全国学力調査の公表・利用の留意点</p> <p>3. 取り組むべき課題 (1)学力低下問題の検証 (2)高校教育の再定義</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
15:00 16:50	<p>学士課程の構築 論点の明確化 桜美林大学 舘 昭</p> <p>1. 学位課程の意義 (1)教員の活動と学生の学習プログラムの区別 (2)アウトカムからの指向 (3)国際的通用性</p> <p>2. 学士課程の意義 (1)学士課程の出自 (2)学士課程の構成要素 (3)国際的動向</p> <p>3. 学士課程の中味 (1)専門教育: 自由学芸か職業か (2)普通教育: 分散かコアか、古典か新技能か</p> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
16:50 17:00	<p>閉会のあいさつ 感想と期待 21世紀総合教育研究機構 会長 浅田 敏雄</p>